

平成15年度 KVBC講演会

昨年12月11日、「日月庵」におきまして、年末恒例となりましたKVBC講演会ならびに忘年会が開催されました。今回は、元KBS京都のアナウンサーで、現在はフリーで活躍されている山口進氏をお迎えし、「アナウンサーとして学んだこと」をテーマにユーモアたっぷりのお話をお伺いしました。

講演会に引き続いて行われた忘年会では、賛助会員の皆さまも多数で参加いただき、活発な意見交換や親睦交流が図られました。



●山口 進
元KBS京都アナウンサー
オフィストム アラズ/
フリーランス・アナウンサー
佛光大学講師 社会心理学・影響力

客観的な事実を多面的にとらえる

アナウンサーという仕事は、「ニュースキャスター」「スポーツ実況」「バラエティ」という大きく3つの種類に分けることができます。ニュースやスポーツは、刻々と変化していく情報を的確に表現するのが務めですが、私のようなバラエティのアナウンサーは、自分の心が変わらなければ面白い話を提供できません。つまり、みずからのものの見方や感じ方が大切なのです。例えば、お酒がコップに半分しか入っていなかったとします。酒飲みの心境になって「ああ、もう半分に減ってしまった」という見方もできますし、下戸の気持ちになれば「まだ半分も残っている」ととらえることもできるわけです。

道端に100円玉が落ちているのを見て、1円の100倍だと感じるか、1万円の100分の1と考えるかによって、100円の価値も変わってきます。コップ半分のお酒、あるいは100円玉という客観的事実を、どれだけ多面的な発想で眺められるか。それが、バラエティアナウンサーが生き残る秘訣だと言えるでしょう。

独自性を生み出すための発想法

皆さんは起業家として、時代に先がけたビジネスに取り組んでおられますが、この厳しい時代を抜け出すためには、ほかには真似のできない「独自性」や「オンリーワン」の視点がポイントになってくると思います。では、独自性を生み出すためのものの受け止め方、発想の方法とはどのようなものなのでしょうか。

私が小学生だったとき、算数の宿題で「 36×25 」という計算をしていると、私の兄が「25は100の4分の1だから、36を100倍して4で割ったら暗算でも答えが出るよ」と教えてくれました。なるほどと感心していたら、中学校になって友だちが「 36×25 というのは $9 \times (4 \times 25)$ のことだから、9を100倍すればいいんだよ」と言うのです。さすがにこれで終わりと思っていたのですが、今度は社会人になって「36は $(40-4)$ のことだから、 $40 \times 25 - 4 \times 25$ という計算もできるよ」と先輩に教えられました。小学生が解くような計算式であっても、1つの方向から眺めるのではなく、さまざまな側面からとらえることによって、ユニークな答えの導き方がいくつも生まれてくるというわけです。

“沿線の名所も知らず定期券”から学んだこと

私は、この世界に入って10年目くらいに、アナウンサーとしてどのようにものの見方を養っていけばいいのか真剣に悩んだことがあります。そのときに、私を救ってくれたのが、「沿線の名所も知らず定期券」という川柳でした。定期券を使えば、その区間であればどこで途中下車をしてもいいはずなのに、私は自宅の最寄り駅と会社の最寄り駅を往復しているだけ。なぜいつも同じ道を通って会社に行くのでしょうか。それは、会社に最も早く行ける近道だからです。その一方で、友だちと長電話をするような無駄な時間を過ごしながら、他方では近道を行こうとする。そのときにふと、毎日同じ道を歩くことが、自分が信じているほど意味がないんじゃないかということに気づいたのです。

例えば、皆さんが三条烏丸から四条富小路まで約1kmの道のりを歩いて、毎日日本を買いにいくとします。東西に5本、南北に6本の通りがありますが、さて毎日少しでも違った道を通って、しかも遠回りをせずにどれだけの間、買い物を楽しむことができますか。一度、地図を広げて、歩いた道筋を描き出してください。ほんの少しでも、形の異なる道筋をどれくらい思い描けたでしょうか。結論を言うと、わずか1km、11ブロックの範囲の中に、126通りの道筋があるのです。チャンスはたくさん転がっているのに、「この道は通ったことがないから」「この道は遠回りだから」という先入観に縛られて、新たな挑戦ができないのです。



先入観にとらわれず、チャンスを生かす

ある本の中に、「We are controled by yesterday（私たちは昨日というものに操られる）」という言葉を見つけました。つまり、同じ過ちを繰り返してしまうということです。つつい自分が行きやすい道に留まってしまつて、何かに目覚めるチャンスを見失ってしまうことは非常に残念なことだと思います。皆さんは、これまで会社経営に一生懸命取り組んでこられました。しかし、今まで以上のことをしようと思えば、それ以外のところから何かの手がかりを発見しなければなりません。それはどこに隠れているのでしょうか。いつもの習慣やルールにとらわれることなく、新たな視点で物事を眺めてみる。今日の講演内容で、これからのビジネスに生かしていただくところがあれば幸いです。

賛助会員のあいさつ

◆京都中央信用金庫 安田様

昨年12月の会合に参加し、KVBC会員の皆さまの熱心な取り組みを身近に感じることができました。これからもベンチャー企業を積極的に支援していきたいと思っています。

◆京都信用金庫 奥田様

これまでの金融機関は担保主義がほとんどでしたが、私たちは意欲ある企業に対して無担保融資も含めて積極的にサポートしていきます。それぞれの企業に合わせたオーダーメイドの商品を用意していますので、ぜひ一度足を運んでください。

◆フューチャーベンチャーキャピタル(株) 松本様

私どもはまだ創業6年目という若い会社ですが、ベンチャー企業ของ皆さまへの投資を通してともに成長していきたいと考えています。創業理念である「京都を日本のシリコンバレーに」という理念のもとで頑張ります。

◆京都コンピュータ学院 吉村様

来年4月に「京都情報大学院大学」という専門職大学院を設立するために努力しています。これからも即戦力につながるような質の高い学生を育てていきますので、ぜひ皆さんのご支援をお願いしたいと考えています。

KVBC忘年会

山口氏による講演会の後、参加者一同が忘年会で親睦を深め、KVBCものづくり研究会のテーマソングである“明日があるさ”を全員で合唱。2004年のさらなるKVBC活動を誓いました。

